

## 上海駐在員 ワクチン接種状況レポート



コロナ感染収束の切り札とされるワクチン。日本の接種状況も最近では急激に進んでいますが、ここ上海でもワクチン接種を促すための動きが更に活発化してきています。今では外国人も中国人と変わらず接種可能（中国製ワクチン）で、周りの日本人駐在員に話を聞いても接種済みとの声が徐々に増えてきています。上海でのワクチン接種状況についてレポートさせていただきます。

上海市はワクチン接種による集団免疫を感染予防・抑制の重点中の重点地域であると位置付けており、6月末現在では18歳以上の市民のワクチン接種率は75%を超えています。接種会場は病院だけでなく、駅前や大型商業施設前等、いわゆる地域社会コミュニティと言われる区内、バスによる移動型等の接種ステーションを配置し、接種率向上のために凄いスピードで取り組んでいます。「找点空闲，找点时间，领着家人，一起苗苗苗（暇な時間を見つけて家族を連れてワクチン接種しよう）」という啓蒙もよく見かけます。



商業施設前に設置された大型バスによる移動型接種ステーション 土日には多くの中国人で混雑

接種率向上のための施策は地域によって異なりますが、接種と引き換えに洗剤、米、ヨーグルト、油、商品券などを配っているところもあり、さらにはワクチン接種を終えた市民に上海ディズニーランドの入園チケットを贈呈するような発表もあるほど接種を呼びかけています。おそらく各地域で接種率のノルマがあるのではと思われるのですが、市を挙げて一種の大規模イベントが如く一気に押し進めるスピード感には圧倒されます。



接種会場の様子（2枚）

椅子に座って順番を待ち、医療スタッフによる簡単な問診を受けバスの中で接種

ワクチン接種は基本2回ですが、現在では1回の接種で有効となるワクチンも出てきているようです。中国人の中には、利便性だけで判断せずに慎重に検討していく必要があるという意見もあるようです。

このような一連の大規模ワクチン接種の動きは目先、来年2022年に北京で行われる冬季オリンピックに向け、中国政府がラストスパートをかけているようにも思われます。そして、将来的にはワクチン接種をしないとオフィスビルや商業施設に入れない、省を跨ぐ移動が制限されることなども想定されます。